

学力向上につながる ～各種事業・研修会の充実～

学校教育課通信

平成 28 年 2 月 24 日 (水) 第 120 号
編集・発行：県南教育事務所 佐藤 晃

平成 27 年度 学力向上のための「つなぐ教育」推進事業の取組

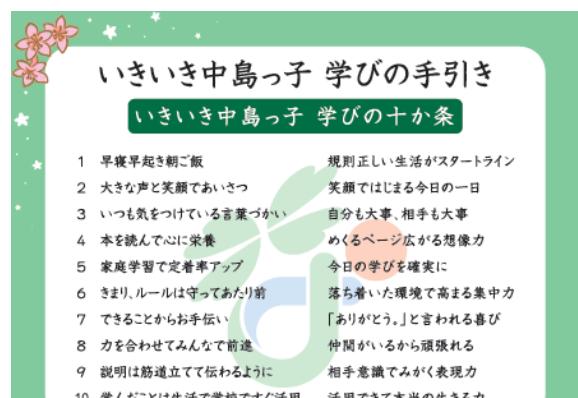
1 月 28 日 (木) に白河合同庁舎で開催した第 2 回学力向上担当者等研修会において、今年度の「つなぐ教育」推進地域の中島村と矢吹町の実践報告会を行いました。二つの推進地域とも、学校や家庭、地域との連携、さらに系統的な学びを意識した実践内容、成果と課題が発表されました。これらの取組のよさを各市町村、各学校で生かしていただきたいと思います。

中島村の取組



家庭学習 6 つのポイント

- 宿題は必ずやりましょう!**
宿題は、授業で学習したこと理解したり、覚えたりするために大切なものです。必ずやって、提出期限を守りましょう。
- 勉強する場所と時間を決めて!**
毎日、決まった場所で決まった時間に学習をする。身にまとい、自分で計画を立てて、それに従って学習することで習慣が身につき、スムーズに学習に取り組めるようになります。
- 目標をもって学習しよう!**
「漢字を覚える」「〇〇の計算ができるようにする」「ドリルを〇〇ページ終わらせる」などいろいろに目標をもって学習することで集中力や達成感が高まります。
- 机の上を整とんして、集中して学習しよう!**
集中して学習するために、学習環境を整えましょう。「テレビを見ながら」「音楽を聴きながら」という「ながら学習」は集中力が下がり、学習が身につきません。
- 自主学習にチャレンジ!**
授業の復習や予習を行いましょう。特に「不得意な教科に力を入れる」「分からぬところを辞書や教科書で調べ、できるだけ自分の力で解決する」といったことを心がけましょう。
- 週1回はノーディスプレイ!**
テレビ、携帯電話、スマートフォン、ゲームなどをがんばって、集中して学習や読書に取り組みましょう。



いきいき中島っ子 学びの手引き

いきいき中島っ子 学びの十か条

- 早寝早起き朝ご飯
- 大きな声と笑顔であいさつ
- いつも気をつけている言葉づかい
- 本を読んで心に栄養
- 家庭学習で定着率アップ
- きまり、ルールは守ってあたり前
- できるところからお手伝い
- 力を合わせてみんなで前進
- 説明は筋道立てて伝わるよう
- 学んだことは生活で学校で活用

規則正しい生活がスタートライン
笑顔ではじまる今日の一日
自分も大事、相手も大事
めぐるページ広がる想像力
今日の学びを確実に
落ち着いた環境で高まる集中力
「ありがとう。」と言われる喜び
仲間がいるから頑張れる
相手意識でみやびく表現力
活用できて本当の生きる力

学習の心構え～授業を大切に～

- チャイムが鳴る前に授業の準備をし、席に着きましょう。
- はじめと終わりのあいさつをきちんとしましょう。
- むだ話をしたり、ふざけたりしないで、集中して学習しましょう。
- 先生の話や友達の意見、発表をしっかり聞きましょう。
- 自分の考えを積極的に発表しましょう。
- 発表するときはきちんと手を挙げ、指名されたら返事をして、はっきり答えましょう。
- 黒板に書いてあることを、工夫してノートにまとめましょう。
- 大切だと思ったことはメモしたり、線を引いたりしましょう。
- 学習課題を解決するために、あきらめずに取り組みましょう。
- わからないことは、かならず授業中や授業の後に質問しましょう。
- 学習に必要な備品を忘れないようにしよう。

中島村では「12年間の一貫した取組（生活習慣・学習習慣の育成）」「授業改善による指導力の育成」「幼・小・中の効果的な連携」「学校と家庭の連携」を4つの柱として「つなぐ教育」の実践を行ってきました。

成果としては、「育ちの五か条・学びの十か条」の作成により、12年間の学び方が具体的になり系統的な指導につながり、生活習慣の改善が図られたこと、「話型スキル」の活用を図り、授業改善に役立てられたことなどが挙げられます。

今後、さらに幼・小・中、家庭・地域との連携を深めていくことを期待いたします。



矢吹町の取組



保存版 子どもの学びの習慣化のために

【学習習慣・生活習慣の確立】～家庭との連携を通して～

4つの提言

提言1 家庭で勉強する習慣を

家庭生活の中に学習時間を作り、宿題プラス「自主学習」などといった形で、学習をためる時間や学習する時間をめ、「学習」習慣のためのために、根気強くしきしていくことが大切です。時間の使い方を本人任せにせず、自主性を尊重しつつも、学習環境を含め、親がある程度監督してあげることも必要です。

【ポイント】

- ・学習する時間、特に、場所を決める
- ・学習に集中できる環境をつくります（子どもが学習している時はテレビを消す、机の上には片付けて、まちがなことになるものを近くに置かないり）
- ・隠れしを少なくする（ついでに取り組ませる、家の人が一緒に見てあげたり、終わったら隠れたりする）
- ・家庭学習の手引きなどを活用

提言2 食事や睡眠などを適切にとる

矢吹町教育委員会
矢吹町学力向上推進委員会
矢吹町の教育を支える会

子どもたちの健やかな成長のために、以下の4つについて推奨いたします。

【ポイント】

- ・子どもたちが健やかに成長していくためには、適切な運動・朝食のとれたて食事・十分な休養・睡眠が大切です。しながら、成長期の子どもにとって当たり前で必要なことである、これらの基本的生活習慣に乱されが見えてきています。食事や睡眠など、家庭での過ごし方にについて、生活リズム全般を考慮して見直すことが必要です。
- ・子どもたちの生活習慣は保護者から大きな影響を受けます。家ぐるみでの見直しに取り組んでみましょう。

【ポイント】

- ・しっかりと内容の食事、質の高い睡眠をとらせることが大切
- ・家庭全体で、食事・睡眠等、生活リズムの見直しを（入浴、就寝、運動も大切）

提言3 テレビやゲーム、携帯電話、パソコンなどの使用はルールを決めて

テレビやゲーム、携帯電話、パソコン等を適切に使用することは、問題です。便利なだけではありませんが、半端、大きな負担につながる過度にあることを理解し、子どもたちをトラブルから守っていく必要があります。

【ポイント】

- ・ノーメディアデーの実施では、毎週水曜日を実践日として推進しています。」（メディアとの関わり方を見直し、スマートから離れてから、テレビや電話を離れて見る、またとの会話や運動の時間であってみんなの前で読み行い）
- ・使う時間、場所などの約束を決め、しっかりと守らせる（子どもの要求に負けない）
- ・音がメディアアートは、親自身の関わり方も見直し、子どもの手本となるようにする
- ・携帯電話等の持持は慎重に、親の責任でルールづくりや使い方の指導を

提言4 読書を楽しむ習慣を

子どもたちにとって、読書はかけがえのない体験です。

読書の習慣化のために、家庭における読書である「家庭（うちどく）」の読書の設定や、家庭10分読書の時間の設定など、学校等と連携した、家庭での継続した取り組みが大切です。

読書上手は学び上手にもつながります。

【ポイント】

- ・家庭（うちどく）の読書環境を整えることが大切（家庭（うちどく））や家庭の読書、家庭での読み聞かせ等）
- ・生活リズムの中に、読書の時間を適切に位置づける
- ・学校での連携の他に、町の図書館等の有効な活用を（読み聞かせ会、おはなし会等）

子どもの健やかな成長のためには、周囲の大人の働きかけが重要です。学校で、家庭で、地域で、矢吹町全体の力を合わせた取り組みを進めていきましょう。

矢吹町の「つなぐ教育」は昨年度に引き続き2年目となりました。昨年度の成果を踏まえ、「4つの提言（①家庭で勉強する習慣を ②食事や睡眠を適切にとる ③テレビやゲーム、携帯電話、パソコンなどの使用はルールを決めて ④読書を楽しむ習慣を）」を柱に推進しています。「学校図書館活性化事業」と関連付けて読書習慣の確立にも力を入れるなど、町全体としての組織的な取組、継続的な共通実践が見られました。「小中交流連携授業（中学校の数学の先生が小学校の算数の授業を行うこと）」、「担任と学校司書の連携授業（国語等）」なども行い、授業改善への教師の意識や児童生徒の学習・読書意欲の向上へつながりました。

「平成27年度県南版国語科基礎からの授業づくりセミナー」を開催しました。

1月6日（水）、白河合同庁舎において、「県南版国語科基礎からの授業づくりセミナー」を開催しました。年が明けて間もない時期にもかかわらず、小学校46名、中学校11名の先生方が参加し、大変活気のある研修が展開されました。「児童生徒にしっかりととした国語の学力を身につけさせたい。」「楽しくて、分かる授業を目指したい。」という先生方の熱い思いが伝わってきました。学力の学力はこうした情熱のある先生鑄型に支えられているのだと感じました。

今回は初めての開催ということもあり、授業づくりの基礎・基本を中心に据え「指導主事による模擬授業」「教材分析の演習」

「言語活動を中心とした事例報告」を行いました。運営や教材分析の演習にご協力いただいた西白河・東白川の指導委員の先生方、事例報告等ご協力いただいた先生方にあらためて感謝申し上げます。これからも、企画・運営を工夫しながら、ニーズに応じた研修会を開催したいと思います。

